



JR東労組 八王子

HACHIOJI



ホームページ

発行責任者
執行委員長 針谷 歩

2021/6/15 No.62

2021年度夏季手当交渉妥結！！

業務部速報



No. 88
発行 21.6.14
JR東労組 業務部

申14号 組合員と家族の生活確保とモチベーション維持・向上を求める 2021年度夏季手当等に関する緊急再申し入れ 妥結の判断をする

中央本部は、組合員から頂いた全ての声を交渉で会社に突きつけてきました。2021年6月11日に開催された申14号交渉では、2.0ヶ月回答への組合員の怒り、生活実感、労働実感、職場現実を会社に突きつけましたが、会社は「受け止めている」としながらも、業績を理由に回答を修正しませんでした。ならば、赤字・コロナ禍における組合員の努力を業績回復後の期末手当の要因と考えべきと主張したところ、会社は「将来のことはわからない」「態度の判断」と回答しました。交渉は平行線を辿り、要求に対する回答は対立し、納得できず不満があることを強く述べました。これ以上の進展はないと判断し、**今交渉を組織内で議論して判断することとしました。**

6/14 各地本代表者会議を開催

各地本代表者から「21春闘を総括し、議論を積み重ね、赤字だから仕方がないという声も議論を通じて2.0ヶ月では足りないという声へ」「生活実感を基にしたたたかいは職場からつくり出すことができた」「再申し入れの意義を伝えることで、JR東労組のたたかいは理解者が増えた」「会社に再考を求めていくべきだ」など、たたかいは前進が発言される一方、職場の声に耳を傾けず回答を修正しない会社に怒りが出されました。議論した結果、**今案については中央執行委員会の判断に一任することを確認しました。**

その結果 基準内賃金 **2.0ヶ月**
支給日 **6月29日**準備でき次第
で妥結を判断しました。

生活実感と職場からの切実な声に基づいた要求を掲げ、過去最低回答に立ち向かい、たたかいた「中央執行委員会見解」を発出しました。

見解を全職場で読み合わせしよう！

夏季手当交渉を支えていただいた組合員・家族の皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました！

組合員・家族の皆さまへ

職場からの声で夏季手当交渉を支えて頂き、感謝申し上げます。ありがとうございました。

この悔しさや怒りをバネに、
組合員の実践で強化した団結力で、
「健康・ゆとりの働きがい」を勝ち取ろう！

緑の風 FAX版

NO. 117 2021年6月14日 JR東労組



JR東労組ホームページ

全職場で読み合わせをしよう！

生活実感と職場からの切実な声に基づいた要求を掲げ、過去最低回答に立ち向かい、たたかいた「中央執行委員会見解」

2021年6月10日、申13号「2021年度夏季手当等に関する申し入れ」に対し、基準内賃金2.0ヶ月という回答が示された。中央本部は、生活するために必要な具体数など職場から切実な声と現実が寄せられ、再三訴えてきたが、会社から示された回答は、職場の声を受け止めていないものとは程遠い内容だった。会社は、「厳しい経営状況の中でしっかりみんなのために理解していただきたい」と述べたが、JR東労組は、それ以上に1年以上続くコロナ禍における組合員と家族の声を重く受け止め、「昨年よりも是元の実績は回復しているにも関わらず、支給月数が減少していること」「組合員の生活実感と労働実感が会社回答と全く認識が一致していないこと」「昨年の夏季手当、4ヶ月を大きく下回っていること」を理由に、JR東労組結成以来初となる申14号「緊急再申し入れ」を同日行った。

翌日に開催された交渉では、2.0ヶ月回答への組合員の怒り、生活実感、労働実感、職場現実を会社に突きつけた。会社は「受け止めている」としながらも、業績を理由に回答を修正しなかった。それに対し、赤字・コロナ禍における組合員の努力を業績回復後の期末手当の要因と考えべきと主張したところ、会社は「将来のことはわからない」「態度の判断」と回答した。JR東労組が主張すれば、赤字下における努力と苦勞が報われないことがわかった。だからこそ、「赤字・コロナ禍における職場の努力に報いて賃金に反映させること」を要求として掲げ、今から要求実現に向けたたたかいはつくり出していくなくてはならない。そのためには、未加入者への積極的な呼びかけを行い、「JR東労組に結集しよう！」と粘り強く訴え続けていくことが重要である。そうであれば、「2021年度夏季手当」や「22春闘」にも大きな影響を及ぼすことになる。

今夏季手当において、ある管理者から「4785億円赤字を出しているのにボーナスを出してくれる経営者がいるのか？社長が判断して2.0も出して頂けた。それに対して我々が最大限返している」という発言が行われた。また、多くの職種で現場長や管理者から怒りを聞かれ、不満を述べれば両方ともとれる返答がされている。経営判断が何よりも優先されてしまえば「社員はその判断に従え」と言われているに等しい。このような企業体質を転換するためにも、「緊急再申し入れ」を行ったのである。

私たちのたたかいは出発点で、21春闘の敗北である。これまで前例のない「定期昇給・昇給保証2の実施」と回答が示され、組合員との議論を深めることなく妥協してしまっただけで、困難時代から定期昇給が削られたことなどなかった。さらに他の鉄道会社を見ても、定期昇給・昇給保証を削ったのはJR東日本グループのみだったことに、多くの組合員がショックを受けた。そのことにより職場からは様々な意見が出された。組合員の諦め感や閉塞感、仕方を要請してしまっただけで中央本部の問題であったと絶望した。JR東労組は、抵抗とヒューマンズムの精神を基軸に「言うべきことは言う。やるべきことはやる」と主張し、スクラム組んで会社に立ち向かっていかなければならない。

私たちは、他の労働組合が早々に妥協し沈黙する中、最大限たたかってきた。今回、修正回答をから取ることはできなかったが、自ら実践すれば、組織の即効力や必要性は増していくことを期して実施した。そして会社は、常に諦め感や閉塞感、仕方を要請させ、「社内議論」として北へ出し、「労働組合について意味がない」「福利は会社のせいになりはしないか」ということを職場に届けておこうとすることも自覚しなければならぬ。だからこそ諦めることなく、組合員と日々議論を重ね、JR東労組に結集することが重要なのである。私たちは、一人ひとりが率先して実践すれば要求の前進は阻まれなかったとしても、次なるたたかいに向けた原動力になることやJR東労組の未来展望を見出せることをたたかいた過程で学ぶことができた。

以上のことを踏まえ、本日、夏季手当等に関する申し入れは妥協の判断を行ったが、要求の実現に至らなかった組織現実を受け止めなければならない。会社はJR東労組の声を少数と受け止めていないのである。要求実現できなかつた悔しさや怒りを自らのものとして、JR東労組の組織強化・拡大を実現し、要求実現できる組織へとつくりかえていこう！今後、バス関東本部、バス東北本部、ステーションサービス協議会の夏季手当等要求実現に向けたたたかいは続く。中央本部は、抵抗とヒューマンズムを基軸にJR東日本で働く仲間と力を取り合い、困難な現実面に立ち向かっていく決意である。

これまで交渉を支えてくださった、全組合員とご家族の皆さまに感謝を申し上げ、中央執行委員会としての見解とする。これからのたたかおう！

2021年6月14日
東日本旅客鉄道労働組合
中央執行委員会